

第49回栃教協夏期研修会実施計画（案）

1 研究主題

『夢と志を持ち、可能性に挑戦する力』を育む教育の創造
＝主体的に判断し、協働しながら新たな価値を創造できる子供の育成を目指して＝

2 主題設定の理由

今の子供たちやこれから誕生する子供たちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想されます。生産年齢人口の減少、人工知能（AI）の飛躍的な進化やグローバル化の進展、絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代となっていると思われます。

そのような社会の中で、子供たち一人一人が、直面する様々な変化を柔軟に受け止め、感性を豊かに働かせながらどのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかを考え、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に判断し、多様な人々と協働しながら課題を解決できるようにならなければなりません。これからは、今までの教育の中で育まれてきた「生きる力」や、その中で重視されてきた知・徳・体の育成の現代的な意義を改めて捉え直し、夢と志を持って可能性に挑戦するために必要な力を確実に育成することが重要となってきます。

「必要な力」は、①何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）、②理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）、③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）の三つの柱を通し、社会や世界との接点を重視しながら育成していかなければなりません。その際、特に、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善（「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善）や、カリキュラム・マネジメントを確立することなども必要となってきます。

新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制を構築し、未来を担う子供たちへの教育を充実させるには、教育の直接の担い手である私たち教職員の資質の向上が不可欠です。教職員は、教職生活の全体を通じて学び続け、これからの時代に求められる質の高い学びを実現するとともに、複雑化する教育課題に適切に対処するための指導力を身に付けなければなりません。

そこで、第49回栃教協夏期研修会は、新たな研究主題を、『夢と志を持ち、可能性に挑戦する力』を育む教育の創造とし、「主体的に判断し、協働しながら新たな価値を創造できる子供の育成を目指して」を副主題として、研究してまいります。

また、平成30年6月に策定された第3期教育振興基本計画や今年度から順次全面実施される学習指導要領に沿った研究とするため、「学習指導」「道德教育」「学校危機管理」「健康教育」「学校マネジメント」「特別支援教育」の6つの分科会を設定します。特に「学習指導」では、言語能力と同様、学習の基盤となる情報活用能力を育成するためプログラミング教育を取り入れます。「道德教育」では、「特別の教科 道德」の実施に伴い「考え、議論する道德」を重視しながら研究に取り組んでいきます。

栃教協では、会員の声や時代の情勢、社会の要請を的確に捉えた研究協議を行い、会員の創意ある実践と経験を基礎とした種々の取組を踏まえ、一人一人の資質・能力の向上に努めることが職員

団体としての存在価値の一つだと考えます。

栃教協夏期研修会が、教職員としての資質向上に繋がるとともに、よりよい教育の推進に寄与する機会となることを期待します。

3 分科会の基本的な考え方

- (1) 教職員団体としての特色を生かし、教育の概念に捉われることなく、自由な発想のもと教育専門職としての研修を深める。
- (2) 提案内容は、分科会のテーマ及び研究協議の視点等を踏まえ、教育現場に直接役立つものとする。
- (3) 会員相互の親睦を深め合うとともに意識の高揚を図りながら、教育現場における諸問題を前向きに捉え話題とする。
- (4) 今日的課題を解決するための具体策を協議する。

4 分科会における研究協議の視点

(1) 第1分科会 「学習指導」

① 研究テーマ

確かな学力の育成の実現に向けた取組

② 協議の視点

◎ 各教科における主体的・協働的で深い学びの実現に向けた取組

- アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践
- 単元構成、指導計画の工夫・改善（カリキュラム・マネジメント）
- 学習過程の工夫・改善（発問や課題づくり、課題解決の方法や手段の決定等）
- プログラミング教育の実践

◎ 各教科の「見方・考え方」を軸とした授業改善の在り方

- 学年・単元における「見方・考え方」の明確化
- 「見方・考え方」を活用できる学習課題の設定
- 学習内容の定着を確かめる評価の方法

◎ 「授業力」を向上させる校内研修の在り方

- 校内研修の在り方（方法と内容）における成果と課題
- 授業力を高めるための教職員のニーズに応じた校内研修の在り方

(2) 第2分科会 「道徳教育」

① 研究テーマ

「特別の教科 道徳」（道徳科）を要とし、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う教育の在り方

② 協議の視点

◎ よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う教育の在り方

- 「考える道徳」「議論する道徳」を取り入れた指導実践
- 児童生徒の心の変容を捉える評価
- 道徳的判断力や道徳的实践力を高める実践
- 郷土資料等の地域補助教材の開発や活用、伝統文化を生かした教育実践

- 道徳的な心情や意欲を高め、教育活動全体での道徳的实践につながる指導内容
- ◎ 道徳教育を充実させるための指導体制の在り方
 - 道徳科と全ての教育活動とを関連させたカリキュラム・マネジメントの実践
 - 道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実
 - 望ましい学校・家庭・地域の連携の在り方

(3) 第3分科会 「学校危機管理」

- ① 研究テーマ
 - 学校の危機管理体制づくりの在り方
- ② 協議の視点
 - ◎ 学校の危機管理体制づくりの在り方
 - 保護者や近隣住民からのクレーム対応に関する事例研究
 - 反社会的行動やいじめ等への対応や予防に関する事例研究
 - 校内における児童生徒指導体制の構築
 - 関係機関や地域、保護者との連携を強化する取組
 - 自然災害や交通安全対策、不審者対策等、児童生徒の命を守る危機管理体制の構築

(4) 第4分科会 「健康教育」

- ① 研究テーマ
 - 生涯にわたってたくましく生きるために必要な健康教育の在り方
- ② 協議の視点
 - ◎ 児童生徒の自己管理能力の育成を目指した指導の在り方
 - 専門性を生かした指導の在り方
 - 児童生徒の生活や地域の実態を踏まえた健康教育の指導の実践
 - 教材・教具の工夫
 - ◎ 児童生徒の健康教育を推進するための指導体制の在り方
 - 健康教育を推進するための校内指導体制の在り方
 - 専門性を生かした教諭・養護教諭・栄養教職員等による校内連携の在り方
 - 学校を核として家庭・地域を巻き込んだ食育・保健教育の推進
 - 保健主事を中心とした校内連携体制

(5) 第5分科会 「学校マネジメント」

- ① 研究テーマ
 - 「次世代の学校」を実現するための協働体制の在り方
- ② 協議の視点
 - ◎ チーム学校を実現するための協働体制づくりの在り方とその方向性
 - 保護者や地域住民との連携を重視した学校評価と運営組織改革の在り方
 - 校種間連携の在り方を探る取組
 - ◎ 職務内容の工夫と改善
 - 学校における業務改善の取組
 - 学校事務の共同実施における効果的な実践
 - 学校事務職員としての専門性を生かしたより効果的な職務の在り方

- 段階的職能研修の充実
- 人材育成を図るための効果的な実践

(6) 第6分科会 「特別支援教育」

① 研究テーマ

能力や可能性を最大限に伸ばす特別支援教育の在り方

② 協議の視点

◎ 能力や可能性を最大限に伸ばすための指導や支援の在り方

○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教育環境や指導の工夫

○個々の実態に応じた教育課程の編成

○個別の指導計画及び教育支援計画の効果的な活用とその評価

○教材や支援ツールの共有化

○ICT教材等を活用した効果的な指導実践

◎ 特別支援教育の全校的・機能的な支援体制の在り方

○特別支援教育コーディネーターを中心とした共通理解と校内支援体制の強化

○通常の学級や異校種間との交流及び共同学習の実践

○通級による指導の効果的な支援体制

○保護者や地域、医療・保健・福祉・労働関係機関等と連携に関する取組

※ 協議が充実するよう、一つの分科会で提案発表は2つとします。すでに下記の表のとおり栃教協教研推進委員会の部員による発表が決まっておりますので、空欄になっている分科会を「希望」あるいは「推薦」していただくようお願いします。

分 科 会	提 案 者	
第1分科会「学習指導」	・	・
第2分科会「道德教育」	・ 教研教員部	・
第3分科会「学校危機管理」	・	・
第4分科会「健康教育」	・ 教研養護教諭部	・ 教研栄養教職員部
第5分科会「学校マネジメント」	・ 教研事務職員部	・
第6分科会「特別支援教育」	・ 教研特別支援教育部	・